

令和6年度 第2回鳴門高等学校学校運営協議会 (概要版)

1 日 時 令和6年11月28日(木) 午前10時から午前11時半まで

2 場 所 鳴門高等学校 視聴覚室

3 会 議

(1) 開会

(2) 学校長挨拶

(3) 村澤会長挨拶

(4) 議題①「Educationプログラムについて」

校長から来年度より年次進行で開講されるEducationプログラム(略称：Eプロ)について説明をした。

ア 開講までの経緯や、今までの検討内容、取組について

(ア) 学校案内に本プログラムについて掲載したり、中学生体験入学において説明をするなど、広報に努めていること、また、夏期休業中に、鳴門教育大学より講師の先生を招いてプレ講座を実施し、理想の教師像について生徒同士で議論させるなど、教職に関する興味関心を高める取組を行ったことを報告した。

(イ) 方針や講座の特色、鳴門教育大学や県教委、鳴門市教委との連携、とくしま教員育成指標との関連について報告した。

イ 委員より追加説明・質問

(ア) 鳴門市に住民票があるEducationプログラム受講生を対象とした奨学金の給付について、成績優秀者各年次10名を上限とし、年間24万円の給付を準備していると説明があった。

(イ) 各年次の定員の設定が40名となっているが、その定員を超える場合はどのように対応するのかという質問があった。

回答：例年の教員志望の人数を参考にしながら、40人という人数を設定している。鳴門教育大学の関係者の方々との話し合いにより、定員の増加も考えられるが、今後小中学校での現場実習などもあり、大人数の実施は現実的ではないのではないかと考えている。

(ウ) 教員志望の生徒が減っている中、このEducationプログラムは、現場の環境改善を鑑みながら、取り組んでいく必要があるのではないかと。

回答：ペーパーレス化や会議の短縮化を図るなど、教員の環境改善にも取り組んでおり、これからも教員の環境改善に努めていきたい。

(エ) 現在の在校生がEducationプログラムに触れる機会があるのか。

回答：定員の状況を見て、教育系の大学に興味をもつ生徒については

募集をすることも考えている。

議題②「令和7年度学校評価総括評価表（素案）について」

第1回の協議をもとに、スクールミッションの変更があったこと、それに伴い、学校評価総括評価表も変更をする必要があることを説明した。また、重点課題において、「地域の活性化につながる探究的な学びの育成」、「グローバルな視点を持って地域社会に貢献できる力の育成」、「地域に開かれた安心で安全な学校や社会を醸成する心の育成」という三本柱を立てた経緯について説明した。スクールポリシーの内容を根拠とし、重点目標を設定したことについて説明した。

(5) 熟議・情報交換

- 鳴門高校で地域連携に携わり6年になるが、Educationプログラムの開講は、地域連携の大きな成果であると感じる。県立学校であるが、鳴門市からの支援があることに、使命と責任を持って、取り組んでいかなければいけない。さらに、鳴門教育大学での鳴門高校の推薦枠の獲得など、さらなる上のステップも想定しながら、取り組んでいかなければならないと考える。教員採用試験の志願倍率の低下や他の高校の状況も受けて、鳴門高校のEducationプログラムをどんどんアピールしていかなければならない。
- ヘルメット着用のモデル校となって交通安全啓発に力を入れて欲しい。
- Educationプログラムについて、大学としても、県内生徒入試枠を設定する計画があり、全体で支援していきたい。生徒には、Educationプログラムの学習経験を生かし、鳴門教育大学から鳴門教育大学院、そして鳴門市の学校現場へ、という道筋を目指してもらいたい。
- 総括評価表やスクールポリシー・スクールミッションは形骸化しがちであるが、具体的に改善事項が示されており、よいと感じる。評価指標の設定が難しいと感じるので、第3回に素案を示してもらおうと議論ができるのではないか。
- 鳴門市にとって鳴門高校はとても大切な学校である。鳴門市の子供たちが鳴門高校を志望したいとなるように、鳴門市としても全面的に協力していきたい。
- 挨拶ができていない生徒もいれば、できていない生徒もいる。出会った生徒が学校のイメージを作っていくことを生徒に理解してもらいながら、粘り強く指導をしていく必要もある。
- 鳴門高校が頑張っている姿がよく分かった。中学校でも教員になりたいと考えている生徒も多い。特色をより出して行って、教員になりたい生徒が鳴門高校に行きたいと思えるように取り組んでいく必要があるのではないか。次の校長会ではEプロを紹介し、鳴門高校が魅力ある学校づくりをしていることを伝えたい。Eプロが軌道に乗ることを期待したい。
- 鳴門市の中学生にとって、地元の鳴門高校に進学することは通学時間や経済的負担を考えるとよいと考える。Educationプログラムを通して、鳴門高校がより魅力的な学校と感じてもらえるよう、努力を続けて欲しい。
- 学校現場は過酷であり、心を病んで教職を辞めていく人も多く出て、その結果教員のなり手が減っていった経緯もあるため、教員を志望している生徒に、「ブラ

ック」というイメージではなく、働き方改革の意味を説明し、考えさせていくことも重要になってくると考える。

- 女子の理系への進学や、理系分野に女性の視点が入ってくることにより、理系女子の生徒の増加に向けた取り組みをしていったらどうか。

(6) その他

第3回学校運営協議会（2月末開催予定）について連絡した。

(7) 閉会